

黑谷聖人傳 八

分類	254部
第	189号
全	10册卷
佛 教 大 学	
图 书 馆 所 藏	
受領第	149647号
昭和	年 月



0931	貴	年
20	重	月
8	傳	日
佛 教 大 学 藏 书		
第	149647	号





本朝祖師繪詞第八

六三卷

月輪殿光親卿上人勅免事ケロノキヤウ被仰置事セラフ

上人上洛事

接州勝尾寺居住事セツウ

上人歸洛事

大谷禪房居住事オホタニ

上人臨終之瑞想事スゲ

武州桑原入道御影寄附事エケキ

叅議兼隆卿御臨終夢想事

知恩院御願奇進事スゲ并瑞想事

堀河太郎入道臨終事

八三十卷

七三十卷



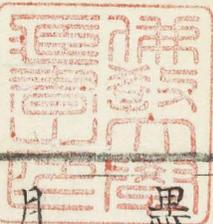
三十九卷
四卷十

上人中陰御佛事
三井寺公總僧正選擇破文悔返事
柵尾明慧上人摧邪輪事
仁和寺靜遍僧正墓所參悔謝事

黒谷聖人傳繪詞第三十六卷

第一段

月輪殿ノオホセヲカル、趣ヲモテ光親卿ミツチカタヒタニ申入ラ
ルトイヘトモ。叡慮レイリョナヲ心ヨカラス。上皇御夢想ノ御
事アリケルウヘ中山ノ相國公頼實。嚴親ノ善知識タリシ
因縁ヲウスシス。上人流刑ノ事ヲナケキタマヒテ念佛真
行ノ事サタメテ佛意ニツムカサランカ。門弟ノアヤマリヲモ千
テトカヲ師範ニヲヨホサシ。罪科セラル、事冥鑒ハカリカキキ
ヨシ。シキリニイサメ申給ケレハオリシモ寂勝四天王院供
養ニ大赦ヲオコナハシケル。ツノ御沙汰アリテ。同年十月
五月改元兼元兼十二月八日勅免ノ宣旨ヲクダサレテリ。



カノ狀云

太政官符

土佐國

流人藤井元彦

右正三位行權中納言兼右衛門督藤原朝臣隆衡
宜奉勅件ノ人ハ二月廿八日事ニツミシテカノ國ニ配
流シカルヲオモフトコロアルニヨリテコトニメシカヘサシム。但
ヨロシク幾ノホカニ居住シテ洛中ニ往還スル事ナカルヘシ
者國ヨロシク兼知シテ宜ニヨリテコレヲオコナヘ符當奉行
到

兼元々々年十二月八日左大史小槻宿禰

權右中弁藤原ノ朝臣

勅免ノヨシ都鄙ニキコエシカハ京都ノ門第ハ再會ヲヨロ

和

コヒ邊鄙ノ土民ハ餘波ヲオシムヨロコヒトナケキトアヒナカ
ハニソ侍リケル

第二段

上人勅免ニアツカリ給テ國ヲイテノホリ給フニ攝津國
押部トイフ所ニシハシ逗留シタニラ老少男女ラスメテ念
佛門ニイシ給事カスヲシラサリケリ

第三段

恩免アリトイヘトモナラ洛中ノ往還ヲユルサレサリシカハ
攝津國勝尾寺ニシハラクスミタニテラハ善仲善算
ノ古跡勝如上人往生ノ地ナリ上人西ノ谷ニ草菴ヲ
ムスヒテスミ給ケルオリフシ恒例ノ引聲ノ念佛アリケルニ

僧衆ノ法服破壊シテ。ミクルシカリケレハ。弟子法蓮房ヲ
モテ。京都ノ壇那ニオホセラシテ。裝束十五具調シテ施入
セラル。寺僧ヨロコヒテ。臨特ニ七日ノ念佛ヲ勤行シケリ。カ
ノ菴室イニアルソノ室ニイシハヲノツカラ異香シカクコトナ
トモ侍トテ。アユミヲハコフ人オホクソ侍ルナ

第四段

當寺ニ一切經ニシメサ、ルヨシヲキ、給テ。上人所持ノ一
切經論一藏ヲ施入シ給ケレハ。住侶隨喜悅豫シテ。老
若七十餘人ハナヲキラシ。香ヲタキ、幡ヲサ、ケ。蓋ヲサシテ。
ムカヘタテマツル。ゴノ經論開題供養ノタメニ。聖覺法印ヲ
召請セラシケレハ。貴命ヲラテ再會ヲヨロコヒテ唱道ヲツ

トメラレケリ。カノ表白ニ云夫、八萬ノ法藏ハ八萬ノ衆類
ヲミキヒキ。一實真如ハ一向專稱ヲアラハス。カノ大聖世尊
ノ自説シテ。南無佛ト唱タマヒシ。ソノ名ヲアラハサ、レトモ。
意ハ彌陀ノ名號ナリ。又上宮太子ノ誕生シテ。南無佛
ト唱タマヒシ。ソノ體ヲキサ、サレトモ。ゴ、ロサレハ。極樂ノ教
主ナリ。シカルニ慈覺大師ノ念佛傳燈ハ。經文ヲヒラキテ。
寶池ノ波ニ和スレトモ。劣機ノ行ニアタハス。諸師所立ノ
念佛三昧ハ佛境ヲ縁シテ。心地ノ塵ヲハラヘトモ。下根ノ
ツトメニアタハス。慧心僧都要集ニハ。三道ヲツクリテ。一心
ノモノハ。ヨヒ又ヘシ。永觀律師ノ十因ニハ。十門ヲヒラキテ。
一篇ニハツカス。空也上人ノ高聲念佛ハ。聞名ノ益ヲアマ

子クスレトモ。名号ノ德アラハサス。良忍上人ノ謝通念
佛ハ神祇眞道ヲス、ムレトモ。凡夫ノソミハウトシ。爰我
大師法主 上人行年四十三ヨリ。念佛門ニイリテ。ア子
クス、メ。易行道ヲシメシテ。ヒロクヲシヘタマフニ。天子ノイツ
クシキ。玉ノ冠ヲ西ニカタフケ月卿ノカシコキ金ノ笏ヲ東ニ
タ、レクス。皇后ノコヒタル韋提夫人ノアトラオヒ。傾城ノ
コトナキ。五百士女ノヨソホヒヲニナフ。シカルアヒタドメルハ
ヲコリテ。モテアソヒ。マツシキハナケキテトモトス。農夫カスキヲ
フム。念佛ヲモテ。田ウタトシ。織女カイトヲヒク。念佛ヲモテタ
テヌキトス。鈴ヲナラス。驛路ニハ。念佛ヲトナヘテ。鳥ヲトリ。フナ
ハタヲタ、ク海上ニハ。念佛ヲ唱テ魚ヲツル。雪月花ノミル

侍

月

人ハ西樓ニ目ヲカケ。琴詩酒ヲモテアソフトモカラハ。西ノ枝
ノ梨子ヲオル。ゴシニ彌陀ヲアカメサルヲハ。瑕瑾トシ。珠數
ヲクラサルヲハ。耻辱トス。ゴ、ヲモテ。花簇英才アリトイヘト
モ。念佛セサルヲハ。オトシメ。乞凶非人ナリトイヘトモ。念佛ス
ルヲハモテナス。故ニハ。功德水ノ波ノウヘニハ。念佛ノハチス
池ニミチ。ニ尊來迎ノ掌ノウチニハ。紫臺ヲサシヲクヒマナシ。金
シカシハ。我芋カ念佛セルハ。カノ池ノ菘癩ナリ。我芋カ欣
求セサルハ。ツノ國ノ衰弊ナリ。國ノニキハヒ。佛ノタノシミ。念
佛ヲモテモト、シ。人ノ子カヒ。ワカノソミ。念佛ヲモテサキトス。
仍當座ノ愚昧公請ニツカヘテ。カヘル夜ハ。念佛ヲトナヘテ
枕トシ。私宅ヲイテ、シル日ハ。極樂ヲ念シテ。車ヲハス。コシ

サ

上人ノ教誡ナリ。過士ノ宿善ニアラスヤトテ鼻ヲカミ。聲ヲムセヒ。舌ヲニキテト、コホルアヒタ。法主ナミタヲナカシ。聽衆ソテヲシホラスト。イフコトナシ。

第五段

勝尾寺ノ隱居モステニ四箇年ニナリヌ。花洛ノ往還ナラユルサレサリレニ。建曆元年夏ノコロ。上皇八幡宮ニ御幸アリシトモ。一人ノ倡妓擯云。星災ニ親疎ナシタ、善人ニクミス。王者ノ徳失ニヨリテ。國土ノ治亂アリ。ワシ南海ノ邊邑ニ訪ヘキ事アリテ。日々往反ス。苦哉々々。近代君シラク臣ニカリテ。政ニコリ。人ウシフ。王城ノ鎮守百王ノ宗廟連々ニ評定ノ事アリ。天下逆亂シ率土蕙廢センサタ

合三衲衣
著せし高僧
キ参参

メテ後悔アラシカト。還御ノ後近臣等奏申サク。倡伎カ託宣タ、事ニアラサランカ。オホヨソ。友ハ徳ニカマス。仁ヨク邪ヲ却ク。國土ヲオサムルハカリコト。徳政ニハシカス。友藥ヲシリソク。術佛法ニ歸スルニアリ。專修念佛停廢。法然房配流尤宥御計アルヘキヲヤト。勅答アキラカナラサルニ同年七月ノコロ。上皇御夢想ノ御事ニシマシキ。蓮華王院ニ御参アル奏シテ云。法然房ハ故法皇ナラヒニ。高倉先帝ノ圓戒ノ御師範ナリ。徳賢聖ニヒトシク。益當今ニアマ子シ。君大聖ノ權化ヲモテ。還俗配流ノ罪ニ處ス。各五逆ニオナシ。苦報ヲソシサランヤト。コノ事オトロキオホシメサシテ。藤中納言光親卿ニヒソカニ。御夢想ノ次第ヲ仰下サル

彼^ノ卿^{キキ}オリヲエテハハクコノ上人ノ花洛ノ往還ヲニルサルヘ
キム子^{キキ}頻ニ奏^{ソウ}シ申ケレハ同十一月十七日彼^ノ卿^{キキ}ノ奉行
トシテ花洛ニ還歸アルヘキヨシ烏頭變毛ノ宜旨ヲカウフ
リ給又則同廿日上人歸洛シ給ケレハ一山徳ヲシタヒ
満寺ナコリヲオシメテ萬^{マン}仞ノ霞ヨリイテ九重ノ雲ニソ
ヲクリタテミツリケルゾノ後イクハクノ歲月ヲヘスツツカニ十
箇年ノ間ニ順徳院号ヲ佐渡院兼久ノ逆亂オコリテ天
下ノミタシニヲヨヒシ倡伎カ託宣イニ思アハセラレ侍リ又
上人左遷ノ時門弟等歎カナシミケレハ源空カ興^{キョウ}スル淨
土ノ法門ハ濁世末代ノ出要ナリ釋尊ニ特留此經ノ
千カヒフカク諸佛ニ攝受^{セツ}護念ノチカラオホキニマシマセハコ

ノ法ノ弘通ハ人ハトメントストモ法サラニトマレヘカラ
ス但イタムトコロハ念佛守護ノ神祇眞道サタメテ無道
ノ障難ヲトカメ給ハンカノ千ニカナラスオモヒアハスヘシトノ
給ケル事カノ託宣ニタカハスマコトニ不思議ニソ覺侍ル

第六段

慈鎮和尚ノ御沙汰トシテ大谷ノ禪房ニ居住セシメタ
マムカシ釋尊上天ノ雲ヨリクタリ給ヒカハ人天大會マ
ツ拜見シタテミツラン事ヲアラソヒキイマ上人南海ノ波ヲ
サカノホリ給ヘハ道俗男女サキニ供養ヲノヘン事ライトナ
ム群^{グン}參^{サン}ノトモカラソノ夜ノヲチニ一千餘人トキコエキ幽
閑ノ地ヲシメ給トイヘトモ日々參詣ノ人連綿トシテタ

エサリケリ

第三十七卷

第一段

建曆二年正月二日ヨリ。上人日來不食ノ所勞増氣
シ給ヘリスヘテコノ三四年ヨリコノカタハ耳目朦朧ニシテ
色ヲミ聲ヲキ、給事トモニ分明ナラス。シカルヲイハ大漸ノ
期千カツキテ。二根明利尤事ムカシニタカハス。ミル人隨喜
シ不思議ノオモヒヲナス。二日以後ハ更ニ餘言ヲシヘス。
ヒトヘニ往生ノ事ヲ談シ。高聲ノ念佛タエスシテ。睡眠ノ
時ニモ舌口トコロナヘニウコク。同三日アル弟子今度ノ御
往生ハ決定歎ト。タツ子申ニワレモト極樂ニアリシ身ナシ

ハサタメテカヘリユクヘシト。ノタマフ。又法蓮房申サク。古來
ノ先德ミナソノ遺跡アリシカルニイニ。精舎一宇モ建立ナ
シ。御入滅ノ後。イツクヨモテカ。御遺跡トスヘキヤト。上人答
給ハク。アトヲ一廟ニシムシハ。遺法アニ子カラス。予カ遺跡ハ
諸州ニ遍滿スヘシユヘイカントナシハ。念佛ノ興行ハ愚老
一期ノ勸化ナリ。サレハ念佛ヲ修セントコロハ。貴賤ヲ論セ
ス。海人漁人カトマヤマテモ。コシ予カ遺跡ナルヘシトツ。オホ
セラレケル

第二段

十一日ノ辰時ニ。上人オキ居給テ高聲念佛シ給フ。キ
ク人ミナ涙ヲナカス。弟子等ニツケテ。ノタニハク。高聲ニ念佛

スヘシ。彌陀佛ノキタリ給ヘルナリ。コノミナヲトナフシハ一人トシテモ。往生セストイフ事ナシトテ。念佛ノ功德ヲホメ給コト。アタカモムカシノコトシ。觀音勢至菩薩聖衆現シテマシマス。オカミタテマツルヤトノ給ヘハ。弟子等オカミタテマツラスト申。コレヲキ、給テ。イヨイヨ念佛スヘシトス。メ給リ

第三段

同日ノ巳時ニ。弟子等三尺ノ彌陀ノ像ヲムカヘタテマツリテ。病床ノミキニ坐テ。タテマツリテ。ゴノ佛オカミマシマスヤト申ニ。上人ユヒニテソヲサシテ。ゴノホトケノホカニ。又佛マシマス。オカムヤ。イナヤト。オホセラシテ。スナハチカタリテノ給ハク。オホヨソ。コノ十餘年ヨリコノカタ。念佛功ツモリテ。極樂ノ庄

嚴及佛菩薩ノ真身ヲオカミタテニツル事ツ子ノ事ナリ。シカシトモトシコロハ秘シテイハス。イマ寂後ニソメル。カルカユヘニ。シメストコロナリト。マタ弟子等佛ノ御手ニ。五色ノ糸ヲドリマシメセトス。メ申セハ。上人ノタマハク。カワウノ事ハゴシツ子ノ人ノ儀ナリ。ウカ身ニヲキテハイマダカナラスシモ。シカラストテ。ツ井ニトリ給ハス

第四段

廿日ノ巳時ニ坊ノウヘニ紫雲ソヒクナカニ圓形ノ雲アリ。ソノ色五色ニシテ。圖繪ノ佛ノ圓光ノコトシ。路次往反ノ人麴々ニシテコレヲミル弟子申サク。コノウヘニ紫雲アリ。御往生ノ千カツキ給ヘルカト。上人ノ給ハク。アハレナルカナ

カワカ往生ハ一切衆生ノタメナリ。念佛ノ信ヲトラシメシ
カタメニ瑞相現スルナリト。又オナレキ日ノ未ノ時ニイタリ
テ空ヲ見アケテ目シハラクモ。ミシロキタマハサル事五六反
ハカリナリ。看病ノ人々アヤシミテ佛ノ來給ヘルカト。タツ子
申セハ然ナリトコタヘ給。又廿四日ノ午時ニ紫雲オホキ
ニタナヒク。西山ノ水ノ尾ノ峯ニスミヤクトモカラ十餘人
コレヲミテ來テツケ申。廣隆寺ヨリ下向シケル禪尼モ途
中ニシテコレヲミテ。タツ子キタリテ。コノヨレヲ申ス。見聞ノ諸
人隨喜セストイフ事ナレ

第五段

廿三日ヨリハ上人ノ御念佛アルヒハ半時アルヒハ一時

高聲念佛不退ナリ。二十四日ノ酉尅ヨリ。二十五日
ノ巳時ニイタルマテハ高聲體ヲセメテ無間ナリ。弟子五六
人カハルカハル助音スルニ助音窮嶮ストイヘトモ老邁病
惱ノ身ヲコタリ給ハス。未曾有ノ事ナリ。群集ノ道俗感涙
ヲモヨホサストイフ事ナレ。二十五日ノ午尅ヨリハ念佛ノ
御コエヤウヤクカスカニシテ高聲ハトキトキマシハルマサレク
臨終ニソソミ給トキ慈覺大師ノ九條ノ袈裟ヲカケ頭
北面西ニシテ光明遍照十方世界念佛衆生攝取不
捨ノ文ヲトナヘテ子フルカコトクシテ息タエタミヒ又音聲ト
トマリテノチナヲ唇舌ヲウコカシ給事十餘反ハカリナリ。
面色コトニアサヤカニ形容エメルニ似タリ。建曆二年正月

二十五日午ノ正中ナリ。春秋八十ニミ千給釋尊ノ入滅ニオナシ。壽筭ノヒトシキノミアラス。支千又トモニ壬申ナリ。豈奇持ニアラスヤ。慧燈ステニキエ。佛日マタ没シヌ。貴賤ノ哀傷スル事考妣ヲ喪スルカコトシ

第六段

武蔵國ノ御家人桑原左衛門入道不知名ト申ケルモノ上人ノ化導ヲツタヘキ、テ。吉水ノ御房ヘタツ子マイリテ。念佛往生ノ道ヲオシヘラレタテニツリテ。ノキハ但信稱名ノ行者トナリニケレハ。歸國ノオモヒヲヤメ。祇園ノ西ノ大門ノ北ノツラニ居ヲシメテ。ツ子ニ上人ノ禪室ニ參シテ。不審ヲ決シ。念佛ヲコタリナカリケルカ。無始ヨリコノカク。常

没流轉シテ。出離ノノ期ヲシラヌ身ノ。忽ニ他力ニ乘シテ。往生ヲトケナカク生死ノキツナヲキラン事。ヒトヘニコシ。上人御教誡ノユヘナリトテ。報恩ノタメニ真影ヲウツシト、メタテマツリケルソノコ、ロサシテ感シテ。上人ミツカラコシテ。開眼シタニテ。上人御往生ノ後ハ。ヒトヘニ。生身ノオモヒヲナシテ。朝夕ニ歸依。渴仰スガノ入道ツ井ニ種々奇瑞ヲアラハシ。往生ノ素懷ヲトケニケリ。年來同宿ノ尼本國ヘカヘリクタルトキ。件ノ真影ヲ知恩院ヘ送タテニツル。當時御影堂ニオハシニス木像コレナリ

第三十八卷

第一段

叅議兼隆卿七八年ノサキニユメミラク人アリテオホキ丸
雙紙ヲ披見ス。コレヲミシハ。諸人ノ往生ヲレセリ。モシ法
然上人ハ往生ヲレルストコロヤアルト。ミモテユクニ。ハルカノ
オクニ。上人ハ臨終ノ時ハ。光明遍照十方世界念佛衆
生攝取不捨ノ文ヲ誦シテ。往生シ給ヘシトシルセリ。ユメ
サメテノキ。人ニカタラス。イマノ往生ノ相ニ符合ノアヒタ信
仰ノヨシ申ヲクル又上人ハ往生ノ前後ニ諸人ノ瑞夢スイムコ
レオホシ四條京極ノ薄師真清ハ。正月十九日ノ夜。夢ニ。
東山ノ法然上人ノ禪房ノウヘニ紫雲ソヒケル。人アリテ
コレハ。往生ノ雲ナリトイフト。次ノ日巳時ニ。紫雲カノ坊
ノウヘニオホヘリ。颯々ニコシヲミルユメト符合ス。弟子念ア

ミダフハ。同廿三日ノ夜。上人ハ往生ノ紫雲ナラヒニ。シロキヒ
カリ。虚空ニミチ異香ヲカクトミル。三条小川ノ倍從信賢カ
カ後家ノ養女ナラヒニ。仁和寺ノ比立尼西妙ハ。廿四日
ノ夜。明日午時ニ。往生シ給ヘシトミテ。オトロキキタリテ。終
焉ニアフ。花園ノ准后ノ侍女參河局ハ。廿四日ノ夜ノ夢
ニ。上人ノ住房ヲミシハ。四方ニ錦ノ帳ヲタシタリ。色々アサ
ハカニシテ。ケフリマタミチミテリ。ヨクヨクコレヲミシハ。ケフリニハ
アラス。スナハチ紫雲ナリ。上人ステニ。往生シ給ヘルカト。オホ
エテサメヌ。花山院ノ右大臣家ノ青侍江内ナラヒニ。ハ
幡ノ住人右馬允時廣カ子息金剛丸ハ。同夜ニ上人
往生ノ儀ヲミテ。二十五日ノ早旦ニ。人々ニカタル。天王

寺ノ松殿法印靜尊ハ二十五日午尅ニ脇息ニヨリカ
カリテ休息シ給ヘル夢ニ上人往生ノ時車ノ輪ノコトク
ナルハ輻輪ノ八方ノサキコトニ雜色ノ幡ヲカケテ東ヨリ
西ヘユクニ金色ノ光四方ヲテラシ天地ニミチミチテ日光
映蔽セラルト見タマフ一切經ノ谷ノ袈裟玉丸ハ二十
五日ノ夜童子玉ノ幡ヲサシテ千萬ノ僧衆香燭ヲトリ
上人ヲ圍遶シテ西ニユキ給トミル門弟隆寛律師ハ初
七日ニアタリテ一晝夜ノ念佛ヲツトムルニ一人ノ僧キタ
リテ上人ハハヤ往生傳ニイリ給ヘリトツクトミルスヘテ諸
人ノ夢想オホシトイヘトモシテキニヨリテツフサニシルサス

第二段

上人ノ住坊ノヒンカシノ岸ノ夕ヘニ西ハシタル勝地アリア
ル人コレヲ相傳シテ自身ノ墓所トサタメヲキケルヲ上人
入洛ノ、千。去年十二月カノ領主上人ニ寄進ス券契
等オナレタ寄進狀ニアヒソヘテタテニツリケレハ源空ニユツ
リタフハコレニ寶ニ廻向セラル、ナリ佛ウケ給ヘトテ火中
ニナケ入ラシ又然ニイテ上人往生ノトキヨノ地ニ廟堂ヲ
タテ石ノ唐櫃ヲカマヘテオサメヲキタテマツルコノ地ノ事ヲ
カサ子テ夢ニミケルトモカラオホカリケシトモテオモヒイル
ル事ナクテスキニケルカイマ上人ノ墓所トナルトキ不思議
ノオモヒヲナシテ面々ニ夢ヲシルシヲクレリカノ地ノ北ノ庵
室ニ寄宿セル禪尼先年ノ夢ニ天童コノ地ヲ行道スト

ミル。又カノ房主去年十一月十五日ノ夜ノユメミコノ
地ニ青蓮華ヒラケテ。金色ノ光カ、ヤクトミル。又隣家ノ清
信女同月ノ夢ニ。コノ地ニ色々ノ蓮華ヒラケテ。ラノ
光ヲハナキ。妙香ヲ薰ストミル。清水寺ノ住僧同月九日
ノ夜ノ夢ニ。夜刃神等群集シテ。コノ地ヲヒキ。石ヲタ、ム
トミル。別當入道惟方卿ノ娘或説云粟田口ノ禪尼。
上人往生ノ後。二月十三日ノ夜ノ夢ニ。上人ノ墳墓ニ
マイリタレハ。八幡ノ寶殿ナリ。御戸ヲアケタルニ。御正體マ
シマス。傍ナル人ソノ御正體ヲサシテコレコソ。法然上人ヨ
トイフヲキ、テ。信心オコリ。身ノ毛イヨタチアセナカルトミル。
又一人ノ女人同三月十四日ノ夜ノ夢ニ。上人ノ廟

佛敎大綱正統

堂ニマイリタレハ。庭ニ色々ノ蓮華アリ。一人ノ僧アリテ。イ
ニタヒラケサル蓮華一莖ヲアタヘテ。コノ地ニ詣センモノニハ
コノ蓮華一莖ヲアタフヘシゴシ。往生人ノカスニイルヘキ
ルレ。ナリコノ事ア子ク人ニシメスヘシトノタマフ。掌ヲアハセ
テ。コレヲウクトオモヒテ。夢サメヌ。コノ夢ニオトロキテ。カノ墳墓
ニタツ子ニイレルニ。地景トイヒ。廟堂トイヒ。事ノ儀スコシモ。
夢ニタカハサリケレハ。信心アサカラスシテ。コノヨシヲ披露ス
ルニ。ニコトヲイタシ。アユミヲハコフモノ。忌月ヲムカヘテ。貴賤イ
チヲナシ。亡日ヲニチテ。上下ソテヲツラ子ケリ。當時知恩院
トイヘルコシナリ

第三段

四條堀河ニ材木ヲ賣買シテ世ヲワタルモノアリケルソノ
名ヲ堀河ノ太郎入道トイフ。フカク上人ニ歸シ念佛ヲ
信シテ上人往生ノトキハ廟堂ノ柱ヲソタテマツリケル。シカ
ルニ上人ノ中陰ニアル日ノ午尅ハカリニ老翁一人上人
ノ墳墓ニタツ子キタリテイハク我ハコシ西山ノ樵夫ナリス
キヌル寅時ノ夢ニ一人ノ僧來テツケテノ給ハク法然上
人ノ墓所堂ノ柱奉加セル入道タ、イマ極樂ニ生スユキ
テ結縁スヘシト。コレニヨリテタツ子參スルヨシヲ申翁ノツケ
ニヨリテ僧衆等ユキテタツマルニカノ太郎入道ハ所勞ニ
ヨリテコノ程東石蔵禪林寺ノ東禪林寺九所ニ移住セリト申アヒ
タヲノヲノカノ所ヘユキテタツマルニサル事侍リ事ノ縁アリ

テ。コレニ侍ツルカ上人ツ子ニカタハラニシマシテ臨終ノチカ
ツノヨシヲシメシ念佛ヲス、メ給ナリトテヨロコヒ侍ツルカ。
スキヌルアカツキステニ往生ヲトケ侍マルト申ス。タツ子イタ
ル僧衆ナラヒニ老翁夢告ノタカハサル事感シ。上人ニ繫
属結縁ノムナシカラサル事ヲヨロコヒテヲノヲノナミタヲソ
オトシケル

第三十九卷

第一段

上人臨終ノトキ遺言ノム子アリ。孝養ノタメニ精舎建立
ノイトナミヲナスコトナカシ。心サシアラハヲノヲノ群集セス。
念佛シテ恩ヲ報スヘシ。モシ群集アレハ鬪諍ノ因縁ナリト

ノ給ヘリ。シカレトモ。法蓮房世間ノ風儀ニ順シテ。念佛ノ
ホカノ七日々々ノ佛事ヲ修スヘキヨシ。申サレテハ。諸人
コレニシタカフ

第二段

初七日

導師信蓮房

檀那大官入道内大臣實宗カノ諷誦ノ文云

夫以先師在生ノムカシ。弟子朝ヲノカシシユフヘ。一心ノ
精誠ヲコラシテ。十重禁戒ヲウク。カルカユヘニ。濟度ヲ彼岸
ニタノミ。敬テ諷誦ヲコノ。砌ニ修ス。小善根ヲキラフ事ナカ
シ。カナラス。大因縁タラン。仍蓮臺ノ妙果ヲカサランカタメニ。
ハヤク霜鏡ノ逸韻ヲタハク。真名ヲモテ假名ニシツ

義

二十七日

導師求佛房

檀那別當入道孫某甲

第三段

三十七日

導師住真房

檀那正信房湛空

誦經物唐朝王羲之摺本一紙面十二行八十餘字
書之

西ヘヨシユクヘキ道ノシルヘセヨ昔モ鳥ノ跡ハアリケリ

第四段

四十七日

導師法蓮房

檀那良清カノ諷誦文ニ云

先師未法萬年ノハシメニアタリテ。彌陀一教ノスクシタル
コトヲヒロム。智慧釵ヲヒツサク。莫耶ノホコサキトキニアラス。
飛行珠ヲミカク。摩尼ノヒカリ。明ヲナラフ抑尊靈逝川ニ
サキタテ。四七日遠人來迎ノ雲ヲノゾム。新墳ニツイテ。
兩三度遺弟酷烈ノ氣ヲカク。誠諦ノ言ヲオモヒテ。菩提
ノ願ヲコフトイヘトモ。揭焉ノ肯意敬テモテ伏膺ス。

第五段

導師權律師隆寛

五七日

檀那勢觀房源智カノ調誦ノ文ニ云

彩雲軒ヲオホフ。千カク見トラク見テ來集異香室ニミツ
我キ、人キ、テ嗟嘆ス

第六段

六七日

導師法印聖覺

檀那慈鎮和尚カノ調誦ノ文ニ云

佛子上人存日ノアヒタ。ハシハ法文ヲ談シ。常ニ唱導ニ
モ千井ル。結縁ノオモヒアサカラス。濟度ノ願フカキカトシコ
シニヨリテ。今六七ノ忌辰ニアタリテイサ、カ。三敬ノ調誦
ヲ修ス。法衣ヲサ、ケテ。往生ノ家ニラクル。解脫ノ衣コレナ
リ。法食ヲウケテ。化城ノ門ニホトコス。禪悅ノ食コレナリ。然
則聖靈ハカノ平生ノ願ニコタヘテ。カナラス上品ノ蓮臺ニ
生シ。佛子ハコノ眞實ノ思ニヨリテ。ハヤク寂初ノ引攝ヲエン

第七段

七々日 導師三井僧正公胤

檀那法蓮房信空カノ諷誦ノ文ニ云

先師廿五歳ノムカシ弟子十二歳ノトキカタシケナクモ
師資ノ契約ヲムスヒヒサレク五十ノ年序ヲツメリ。一旦
生死ヲヘタツ。九廻ノ腸々エナントス。北嶺黒谷ノ草庵ニ
宿セシヨリ。東都白河ノ禪房ニツリシニイタルニテ。其間
撫育ノ恩トイヒ。提撕ノ志トイヒ。報恩ノ思昊天キハニリ
ナレコノヲモテ。彌陀迎攝一軀ノ形像ヲアラハシ。胎藏金
剛兩部ノ種子ヲ安ス。又妙法華經八軸ヲ摺寫シ。金
光明經一部ヲ書寫シテ。モ千テ開眼シ。モ千テ開題ス。一
心ノ懇志三寶知見シ給ヘ。三井ノ僧正子ニコロニ導師

ヲノソミ申ケレケルアヒタ。オモヒノホカナル心地シケルホトニ。
導師トシテ。種々ノ捧物ヲ隨身セラシタリケル。子細ヲホツ
カナカリケルニ。説法ノトキ。佛經ノ讚歎ヲハリテ。ノツフサニ
浄土決疑ヲヤク。因縁ヲノヘテイハク。今日ノ唱導ニス、ミ
參スル事ハ。ヒトヘニ上人誹謗ノ重罪ヲ懺悔セシタメナリ。
上人面談ノツイテニ。条々ノ僻事ヲナラサレ。又我宗ノ大
事三箇条。上人ノラレヘラモチテ。コレヲ決ス。門弟ト稱ス
ルニタレリ。上人一言ノ智弁ヲキ、テ下愚ニ卷ノ謬書
ヲヤクトイヘトモ。先非ヲカナシム。涙ヲサヘカタク。後悔ヲイタ
スオモ。ヒキエカタシ。コレニヨリテ。隨分ノ嗟觀ヲサ、ケテ。廟堂
ニ詣シ。懇懃ノ懺悔ヲコラレテ。寶前ニヒサマツク。弟子ニコト

ヲイマス。亡魂ハツコシコ、ロサシヲオサメ給ヘトテ落淚ラクレイセラレケレハ。
聽衆キコエ感淚カンレイノコエヒ、キヲナシ。諸人シヨジン隨喜ズイキノナミタ袖スエビヲシホ
リケリ

第四十卷

第一段

上人カタリテノ給ハクツシ一向專念ノ義ヲマツルニ。人オ
ホク謗シテイハク。諸行ヲ假ストイフトモ。マタク念佛往生
ノサハリト尤ヘカラス。ナニソアナカチニ。一向專念ノ義ヲマ
ツルヤ。コシ偏執ヒョウシツノ義ナリトガクノコトク難ナシヲイマスハ。ゴノ宗
ノイハシヲ。シラサルユヘナリ。經ニハ一向專念無量壽佛トイ
ヒ。釋ニハ一向專念彌陀佛名ト判セリ。經釋ヲハナシテ。ワ

觀經
行ノ

タクシニ義ヲタテハ。誠マコトニセムルトコロ。ノカシカタシ。此難ヲイタ
サントオモハ。先釋尊ヲ謗シ。次ニ善導ヲ謗スヘシ。ソノトカ
マタク。ワカ身ノウヘニアラスト。オホセラレケル。一向專修ノ
義ヲ破スル。人オホカリシナカニ。園城寺エンジョウジノ長吏大貳僧正
公胤キミノイマタ大僧都ナリシトキ。上人ヲ誅謗シテ。公胤カ見
タラン文ヲ。法然房ノミヌハアリトモ。法然房ノ見タルラン
事ノ公胤カミヌハヨモアラシト。自嘆シテ。淨土決疑抄三
卷ヲ記シテ。選擇集ヲ破ス。則學佛坊ヲ使者トシテ。上人
ノ室シムニヲクラルハトキ。上人カノ使ツカニムカヒテ。コレヲヒラキ見
給ニ。上卷ノハシニ法華ニ即往安樂ノ文アリ。讀誦大乘
ノ句アリ。讀誦極樂ニ往生スルニナニサマタケカアラシ。

カルニ。讀誦大乘ノ業ヲ廢シテ。タ、念佛ハカリヲ付屬スト
イフ。コシオホキナルアヤマリナリトイヘリ。コノ文ヲミタヒテ。ヲ
ハリヲ見ス。サシテキテノ給ハク。コノ僧都コシホトノ人ト。オモハ
サリツ。無下ノ事ナリ。一宗ヲタツトキ。カレハ廢立ノム子ヲ存
スラント。オモハルヘシ。レカルニ法華ヲモテ。觀經往生ノ行ニ
イレラル、事宗義ノ廢立ヲスル、ニ似タリ。モレヨキ學生
ナラハ。觀經ハコレ余前ノ教ナリ。カノナカニ法華ヲ攝スヘカ
ラスト。難セラルヘキ。今ノ淨土宗ノ心ハ。觀經前後ノ諸
大乘經ヲトリテ。ミナコトコトク。往生ノ行ノナカニ攝ス。ナン
ソ法華ヒトリモレシヤ。アニ子ク攝スル心ハ。念佛ニ對シテ。コ
レヲ廢センタメナリト。ノ給ケレハ。使歸テ。コノヨシヲカタルニ。

僧都口ヲトチテ。言説ナカリケリ。アルトキ。宜秋門ノ女院
中宮ニテ。一品ノ宮ヲ御懷妊ノ時。上人ハ御戒ノ師ニメ
サシ。公胤ハ御導師ニ參シタマヒテ。參會シ給事侍ヤ。御
受戒ハテハ。上人退出セントシ給ニ。預キタリテ。ハレ候ハセ
給ヘ見參。二人侍ラント。大貳ノ僧都御坊申セト候ト申
アヒタ。暫シ候候シ給ニ。御經供養ハテハ。僧都キタリテ。上人
ニハ。念佛ノ事ヲ尋申ヘケレトモ。マツ大要ナルニツキテ申
侍ナリ。東大寺ノ戒ノ四分律ニテ侍ル事ハ。如何ニイハレ
ニテ侍ソト。申サルハ。アヒタ。東大寺ノ四分律ニテアルヘキ
道理ヲ具ニ尺シタマヒタリシカハ。僧都カヘリテ。勘テ見給
ヒケルニ。上人申サルハ。ム子。スコシモタカハサリケレハ。次ノ日

又參會ノ時。昨日仰ラシ侍シ事トモ。誠ニサ候ダリトテ。僧
都以外ニ上入ヲ歸敬シタニヒ。淨土ノ法門ヲ談シ。カ子テ
余事ニワタル。玄暉ヲクエシク井ト。僧都申サシケレハ。ソノ宗
ノ人ノ申侍シハ。クエシク井トコソ申侍シカ。暉トカキテコソ
ク井トハヨミ侍シ。暉トカキテハ。ソノコソヨミ侍シト。上人直
申サシキ。惣シテカクノコトキノアヤマリトモ。七箇条マテ直
サレタリシカハ。僧都退出ノ、チ。弟子ニカタラシケルハ。今日
法然房ニ對面シテ。七箇条ノ僻事ヲ直サレタリ。常ニ見
參セハ。才學ハツキ侍ナシ。タツルトコロノ淨土ノ法門。聖意
ニ違スヘカラス。アフキテ信スヘシ。カノ上人ノ義ヲソシル。コレ
オホキナルトカナリトテ。則製作ノ決疑抄三卷ヲヤカシニ

ケリ。誠ニ博覧ノイタリ。ユ、シカリケリトソ。ホメ申サレケル。カノ
僧正ハ顯密ノ達者ニテ。智行兼備セリ。稱義ノ詞。信ヲト
ルニタシルモノナリ。上人ノ中陰ノ唱導ヲソミツトメテ。カサ
子テ。前非ヲ懺悔セラシモ。ヒトヘニ。上人ノ勸化ニ歸シ。念
佛ノ行ヲコタリナクシテ。建保四年閏六月廿日。春秋
七十二。禪林寺ノホトリニシテ。往生ヲトケラレシニ。洛中
洛外。紫雲ヲ見。瑞相ヲキ、テ。群集結縁ノ道俗カスヲシ
ラス。寺門ノ碩德顯密ノ宗近ナリキ。シカレトモ。善ヲキ、テ
ソツリヤス。ク。非ヲアラタメ。信ヲ生シテ。ツ井ニ往生ノ素懷ヲ
トケラシニキ。未學偏執ノオモヒ。ムシロ古賢ノアトニ。ハ千サンヤ

第二段

ノ4
柵尾ノ明慧上人高弁摧邪輪三卷ヲ記シテ選擇集
ヲ破ス上人ノ門徒コソリテ難ヲクハヘシニヨリテカサ子テ
庄嚴記トイヘル一卷ノ書ラツクリテソノ難ヲ救ストイヘ
トモ義理不相應ノアヒタ此書ラツクラシテイヨイヨ名譽
ヲオトサレケリ入道民部卿長房卿ハモトヨリ明慧上人
ニ歸シタル人ナリケレハカノ邪輪ヲ信シテ高野明遍僧
部ニミセタテツラントシ給ケル時僧都ナニ文ノト尋申サ
シケルニ選擇集ヲ破シタル文ナリト申サシケレハ我ハ念佛
者ナリ念佛ヲ破シタラン文ヲハ手ニモトルヘカラス目ニモ
ミルヘカラストテ返し給ニケリカノ禪門モノ千ニハ選擇ノイ
ミシキ事ヲ聞ヒラキテカヘリテ選擇ニ歸シテイツシノ文カ

邪輪ナルラント申サシケルトナシ其後仁和寺ノ昇蓮房カ
ノ邪輪ヲモチテ明遍僧都ニミセタテツルニ僧都申サシケ
ルハ九立破ノミ千ハニツ所破ノ義ヲヨクヨク心得テコソ
破スルナラヒナルニ選擇集ノ趣ヲツヤツヤ心エスシテ破セ
ラシタルユヘニソノ破サラニアタラサルナリソノ中ニ異學異
見ヲモテ群賊ニタトフルヲ破セラシタルモコシ善導觀經ノ
疏ノ文ナリマタク法然房ノトカニアラスオホカタ生死ヲハ
ナレント思フ程ノ人ノコレマテ罵詈誶謗セラシタル事モ
心得カタシトノ給ヘリカノ僧都ハ論義決擇ノミ千日本
第一ノホニシアリキアルトキ貞慶解脫上人澄憲法印
明遍僧都會合シテツレラ一族三人イサ宗論シ侍ラン

ト申サレケルニ隆憲トウケン法印筆ヲトリテ三論三明遍アリ。敵テキノツルキヲトリテ敵ヲ害ス。法相ニ貞慶チウケイアリ。寸ヲトヘハ寸ヲコタフ。宗論サラニカナフヘカラストツカ、シタリケルスヘテ一期ノ間々論義ニツミラストソ申ツタヘ侍ルゾノ評判無下ニハ侍ラレカレザレハカノ明慧上人管宰相ヤンサイ爲長卿ノモトヘオハレタリケルニ摧邪輪ノ事ヲ申シイタレタリケレハサル事侍レカトモヒカ事ナリケリトオモヒナリテイハ後悔シ侍ナリト申サレケルトナシ

第三段

禪林寺ノ大納言僧都靜遍ハ池ノ大納言頼盛ノ郷キョウノ息弘キヨ法大師ノ門人ナリハレメハ醍醐ノ座主勝靈僧

正ヲ師トシテ小野ノ流ヲウクノ千六仁和寺ノ上乘院ノ法印仁隆ニアヒテ廣澤ノ流ヲツタヘテ事相教相ジヤウキヤウ接群ノホマシアリキ浄土門ニイレル濫觴ヲミツカラカタリ申サレケルハ世コソリテ選擇集ニ歸シ念佛門ニイルモノオホクキコエシ程ニ嫉妬ノ心ヲオコシテ選擇集ヲ破シ念佛ニッポ往生ノ道ヲフサカント思ヒテ破文カクヘキ粉紙マテトハノヘテ選擇集ヲヒキミルトコロニ日コロノ所察オホキニ相違ス末代惡世ノ凡夫ノ出離生死ノミチヒトヘニ稱名ノ行ニアリタリト見サタメシカハカヘリテコノ書ヲ賞讀シテ自行ノ指南ニシナフルヨシヲソ申サレケル日來嫉妬ノ心ヲ生レ給ケル事ヲクヒカナレシメテ大谷ノ墳墓ニマウテハナ

クナク悔謝^{クハ}シテイハク。今日ヨリ上人ヲ師トシ念佛ヲ行ト
スヘシ。聖靈照覽^シヲタシテ先非^セヲユル^シ給ヘトゾ。トキ申
サシケル。其後綱班^シヲ辭^シ。ミツカラ心圓^シ房ト号^シテ。一
念佛セラシキアマサヘ續選擇^ラツクリテ。上人ノ義道ヲ助
成^シ。一偈ヲムスンテイハク。一期所案極。永捨世道理唯
稱阿彌陀語嘿常持念ト又法照禪師ノ五會法事
讚ノ彼佛因中立弘誓聞名念我惣來迎トイヘル七
言八句ノ文ヲ誦^シテ。淨土宗ノ肝心コノ文ナリトゾ。子
ハ申サシケル。ツ井ニ貞應三年四月廿日本意ノコトク。往
生ヲトケラシニケル。月氏ニハ天親菩薩ハシメ小乗ヲ信^シ
テ。五百部ノ論ヲツクリテ。大乘ヲ破セシカトモ。後ニ改悔^シ

ノ心ヲオコシ。大乘ニ歸セシカハ。大乘五百部ノ論ヲツクリ
テ。カヘリテ。コレヲホメキ。震旦ニハ宋ノ張萇相イマタ秀才^イ
リシ時。フカク佛法ヲソ子ミテ。破法論ヲツクラント沈吟^セ
シトキ。何氏方便ヲメクラシテ。邪見ノ説トモヲ。ヨクヨク見
テ破スヘキナリトテ。維摩經三卷ヲアタヘシカハ。ゴノ經ヲ披
閱^シテ。フカク改悔ノ心ヲオコシ。護法論ヲツクリテ。カヘリテ
佛教ヲタスケキ。震旦日域コトナレトモ。捨邪歸正ノアト。
ムカシモ。カクコソ侍ケレ

御傳卷八

三十三

